

## カワウの季節移動と個体数調整の影響・効果について

カワウ広域協議会において、情報共有の場から前進させるために、カワウの広域的な移動の状況を捉え、カワウの管理において関係性が高いと考えられる地域を見極めることが重要となる。関東や中部近畿で実施されてきたねぐらやコロニーでの長期的な個体数のモニタリングデータを、水系単位で集計することによって、季節的な個体数の変動と、個体数調整に起因する個体数の減少をもとに、カワウの広域的な移動を推測できるデータが得られた。

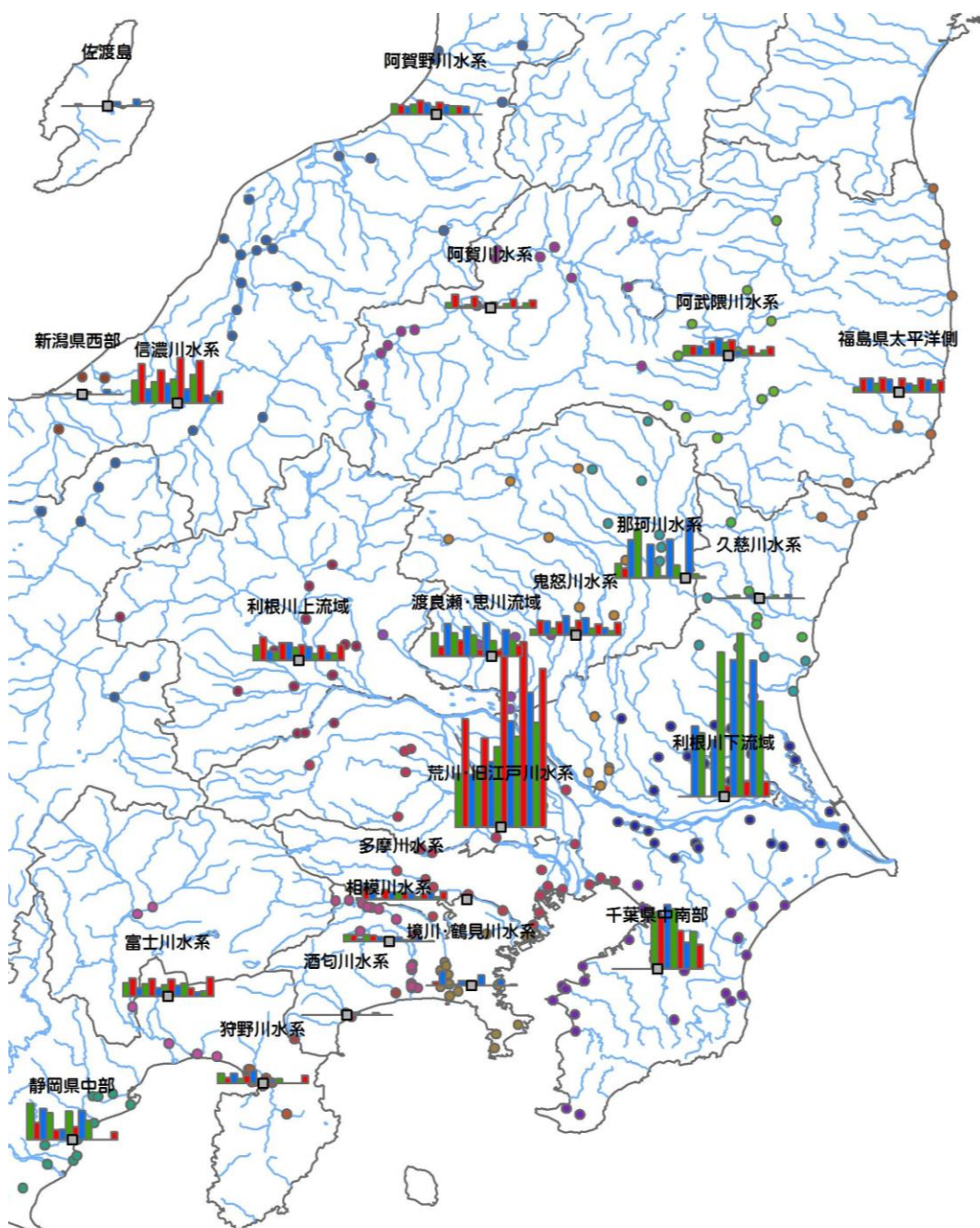


図1. 関東における水系単位のカワウの個体数(H26年春～H30年夏)。グラフは緑が春、赤が夏、青が冬の個体数を表す。丸印はねぐらの位置を示し、集計した水系単位で色分けした。茨城県では夏の時期に調査が行われていないため、季節変動を見る際は注意を要する。

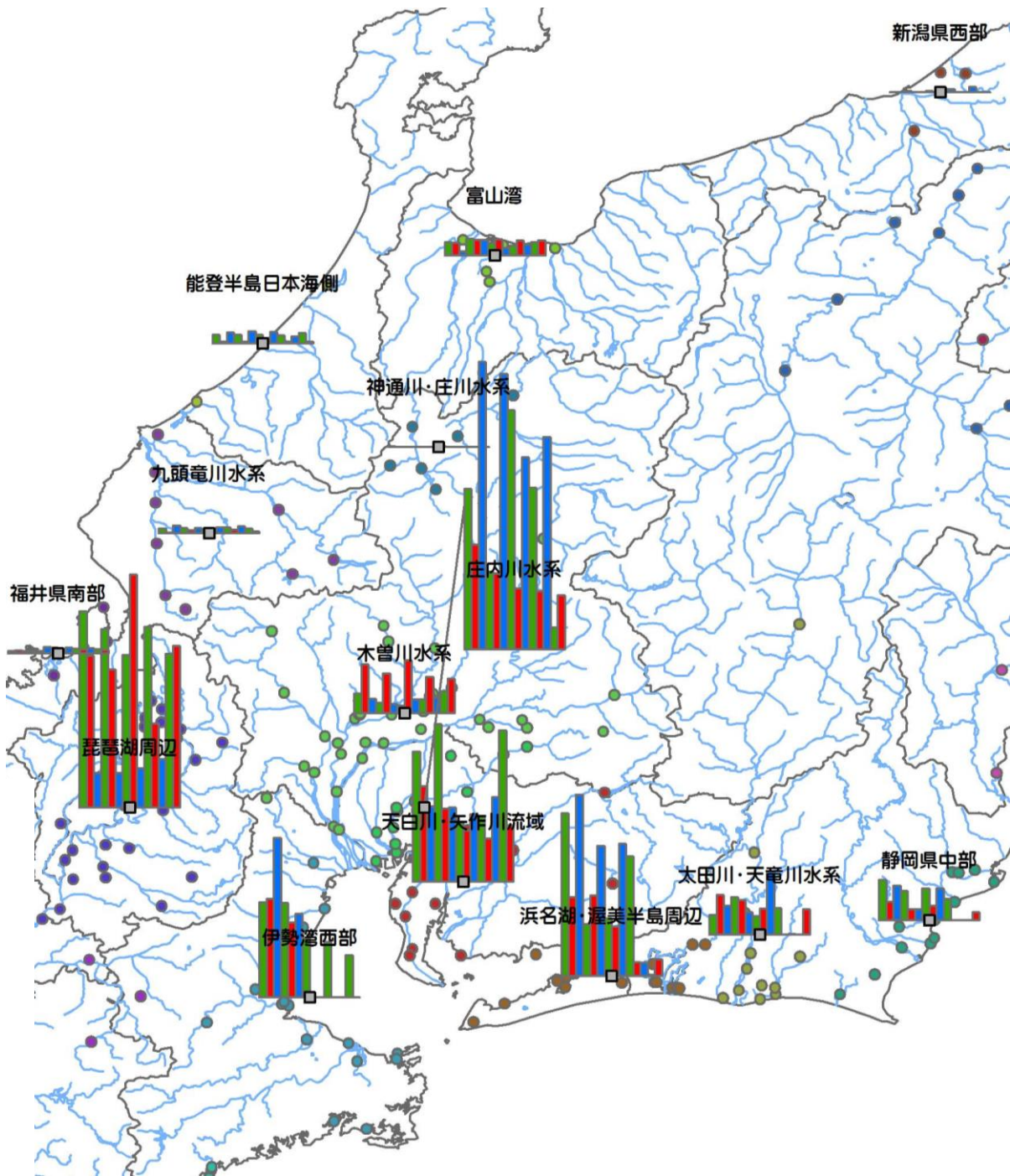


図2. 中部における水系単位のカワウの個体数(H26年春～H30年夏)。グラフは緑が春、赤が夏、青が冬の個体数を表す。丸印はねぐらの位置を示し、集計した水系単位で色分けした。

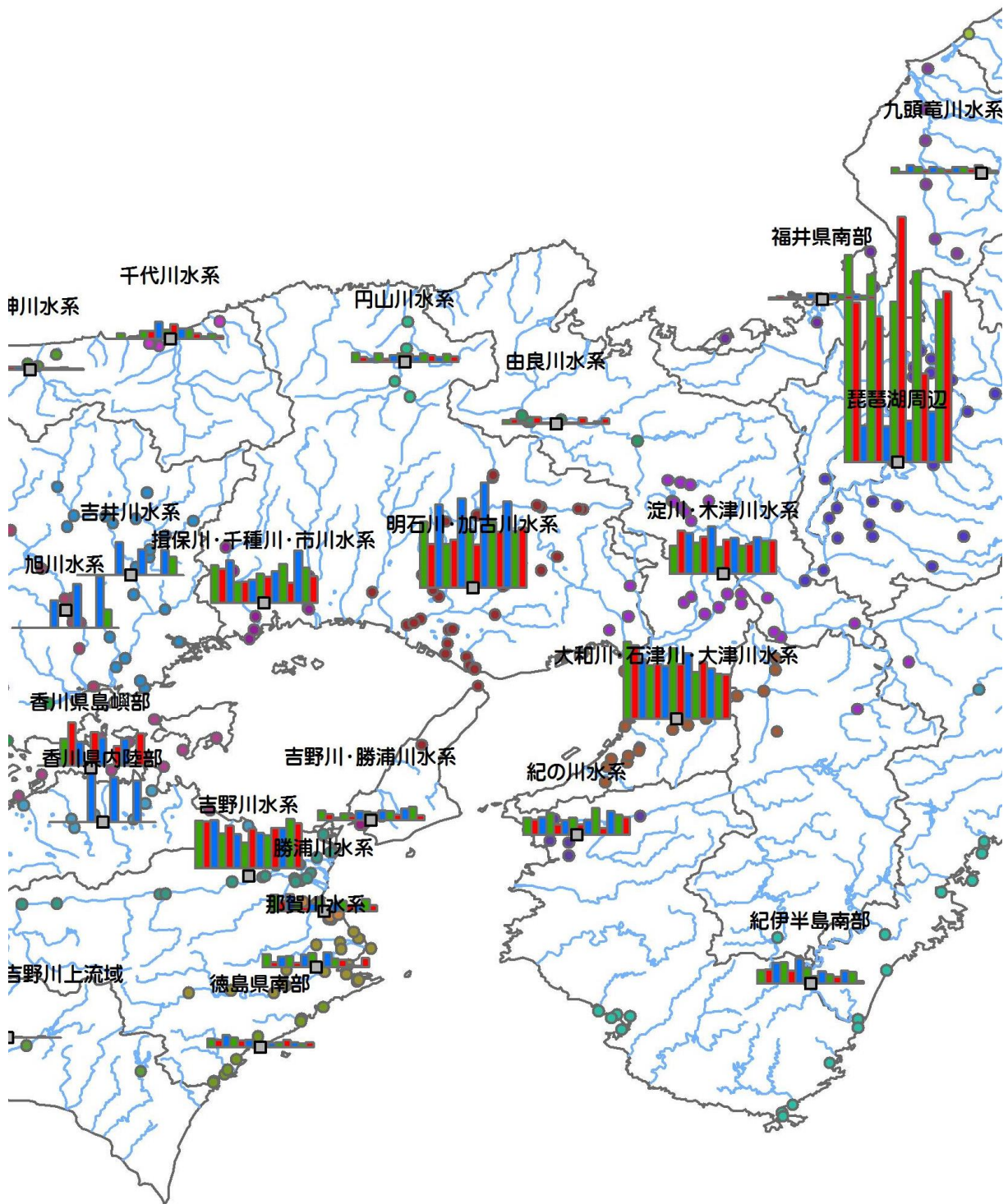


図3. 近畿における水系単位のカワウの個体数(H26年春～H30年夏)。グラフは緑が春、赤が夏、青が冬の個体数を表す。丸印はねぐらの位置を示し、集計した水系単位で色分けした。茨城県では夏の時期に調査が行われていないため、季節変動を見る際は注意を要する。

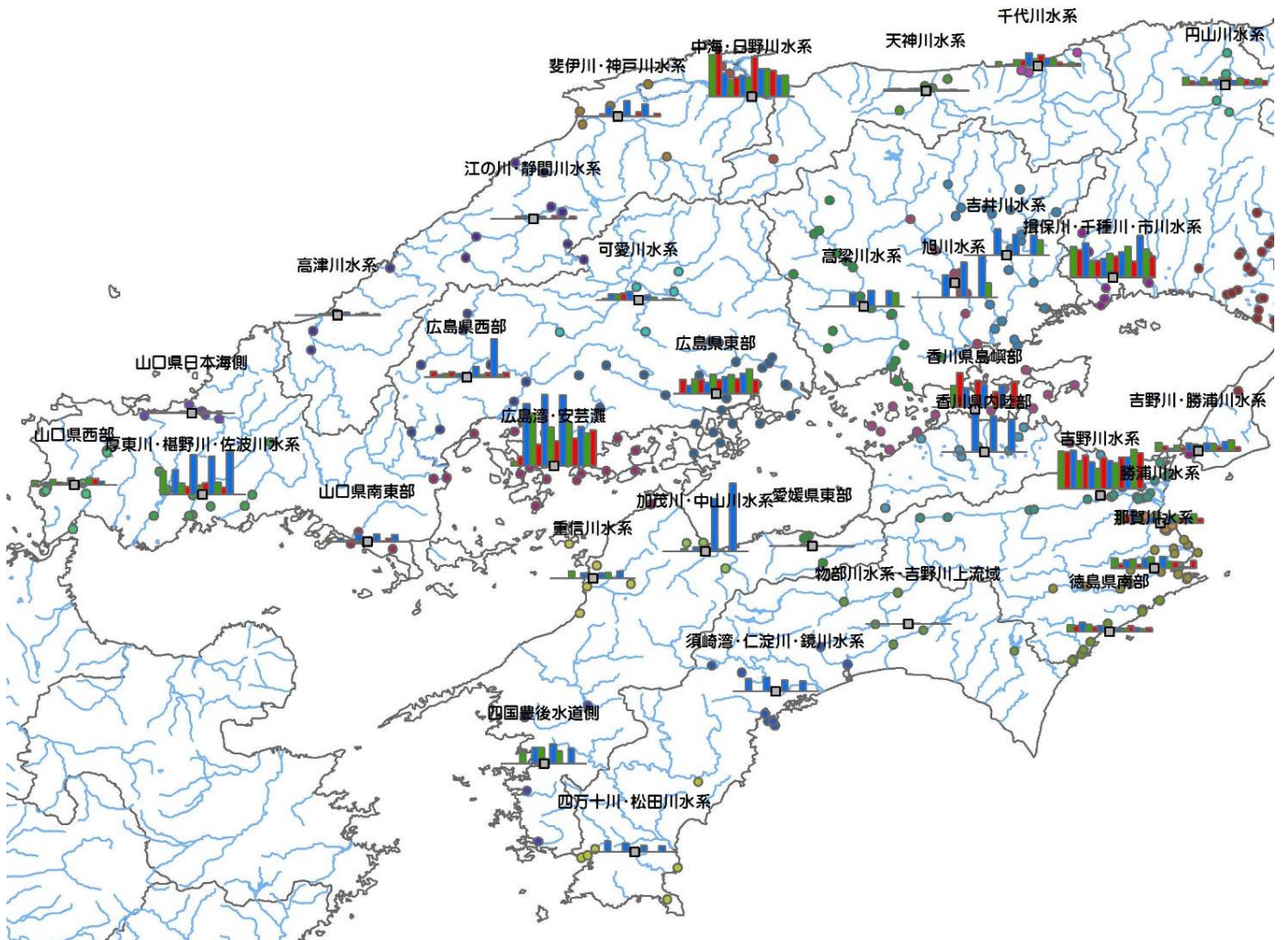


図4. 中国四国における水系単位のカワウの個体数(H26年春～H30年夏)。グラフは緑が春、赤が夏、青が冬の個体数を表す。丸印はねぐらの位置を示し、集計した水系単位で色分けした。岡山県と愛媛県では夏の時期に、賀川健内陸部と高知県では春と夏の時期に調査が行われていないため、季節変動を見る際は注意を要する。

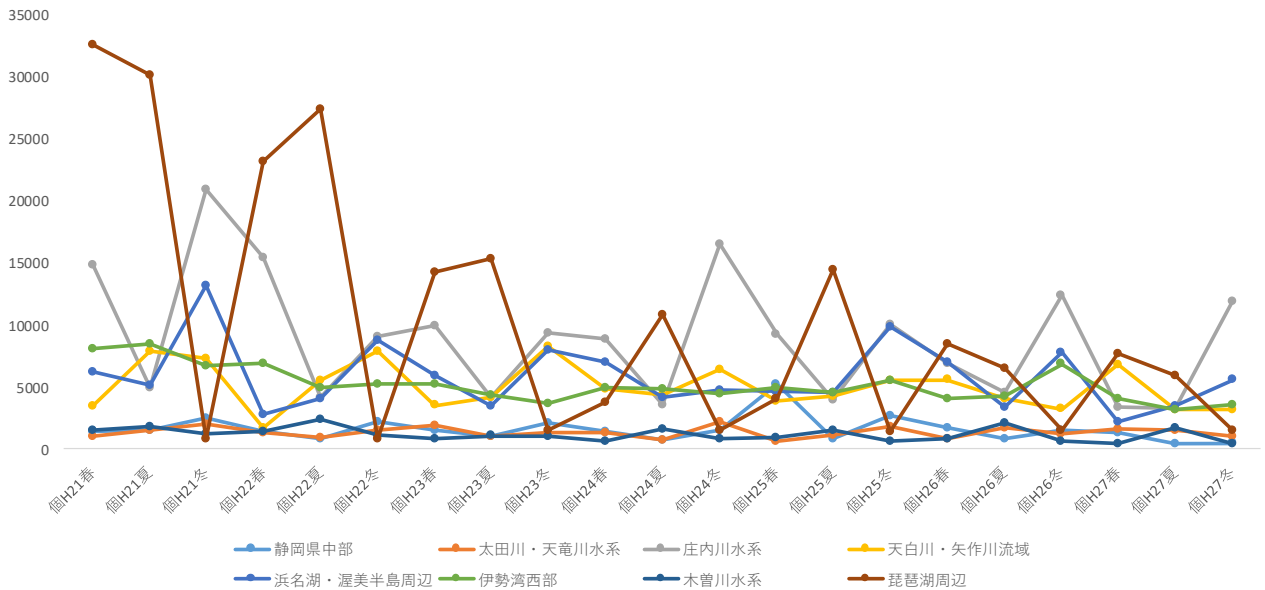


図5. 東海地方における水系単位のカワウの個体数の推移(折れ線グラフ)

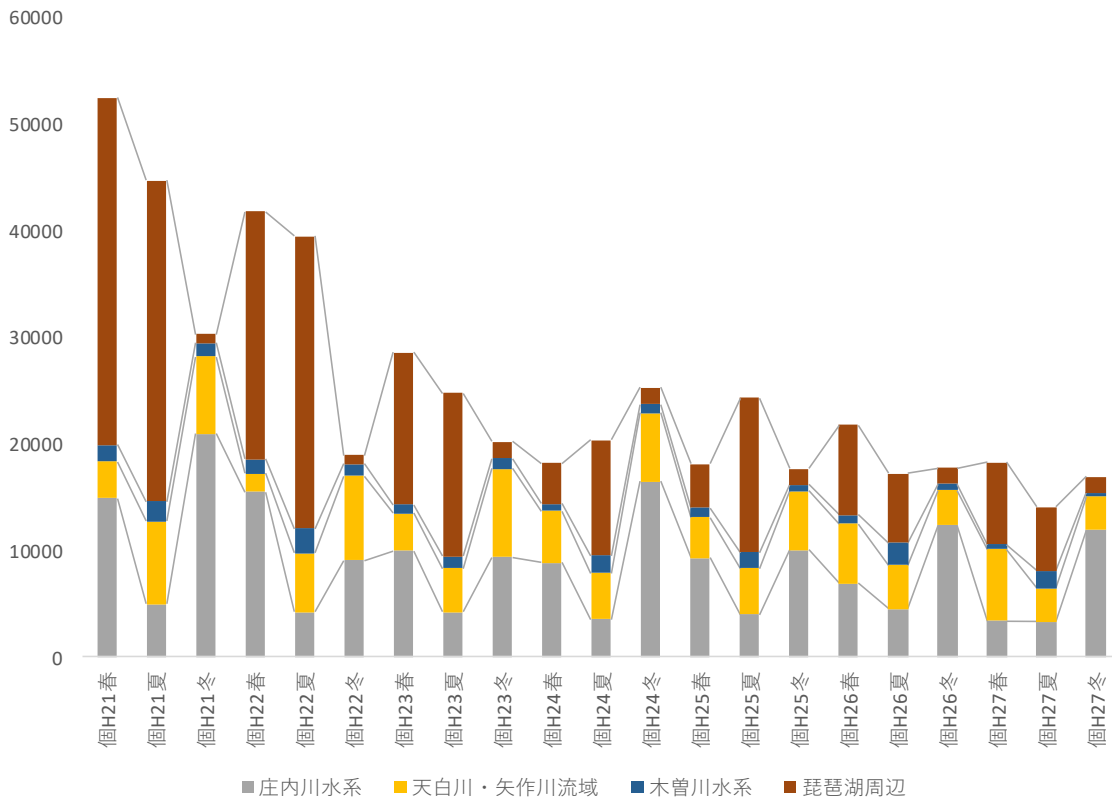


図6. 東海地方のうち衛星追跡によって関連性が高いと考えられる範囲における水系単位のカワウの個体数の推移(積み上げ棒グラフ)

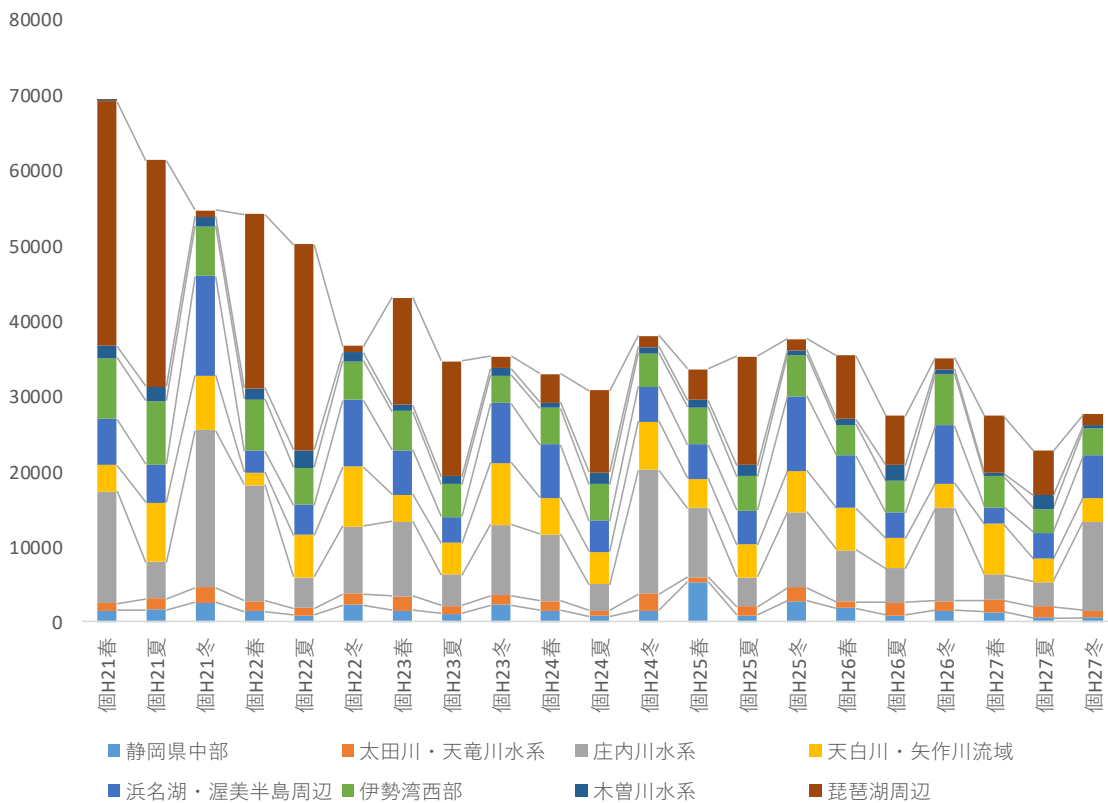


図7. 東海地方における水系単位のカワウの個体数の推移(積み上げ棒グラフ)

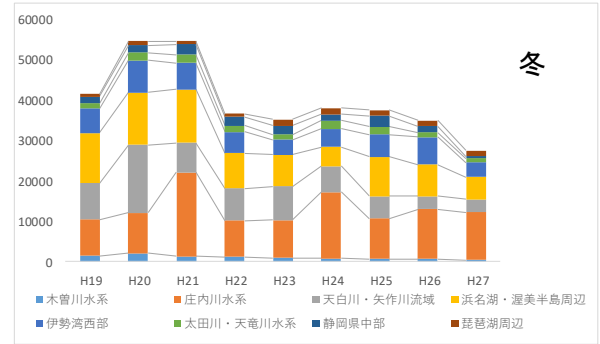
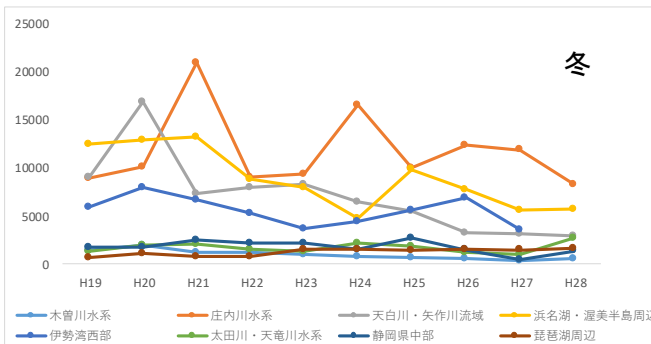
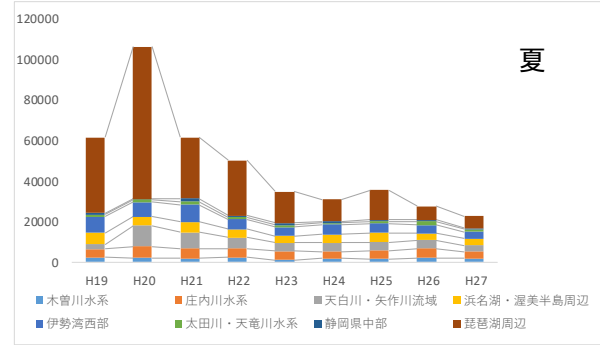
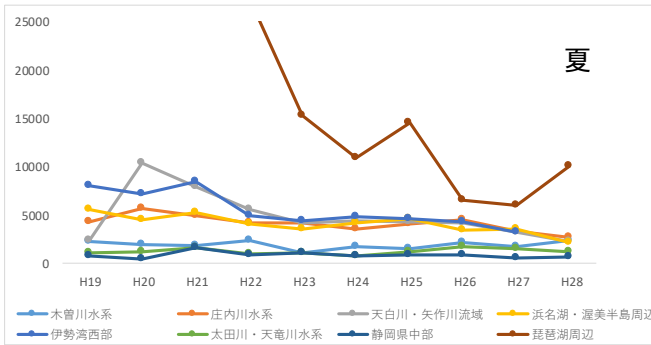
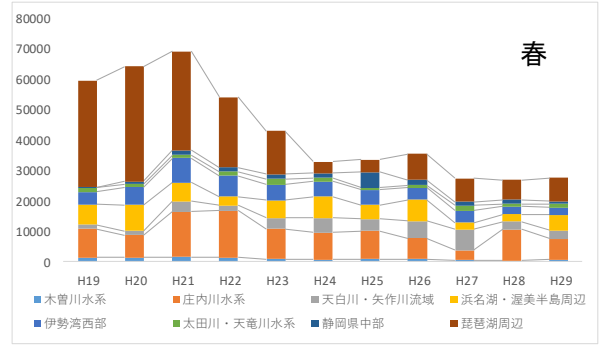
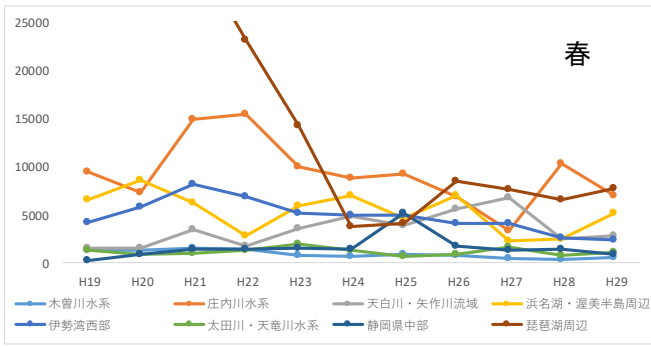


図8. 東海地方における水系単位の個体数の季節ごとの推移(左:折れ線グラフ 右積み上げ棒グラフ)

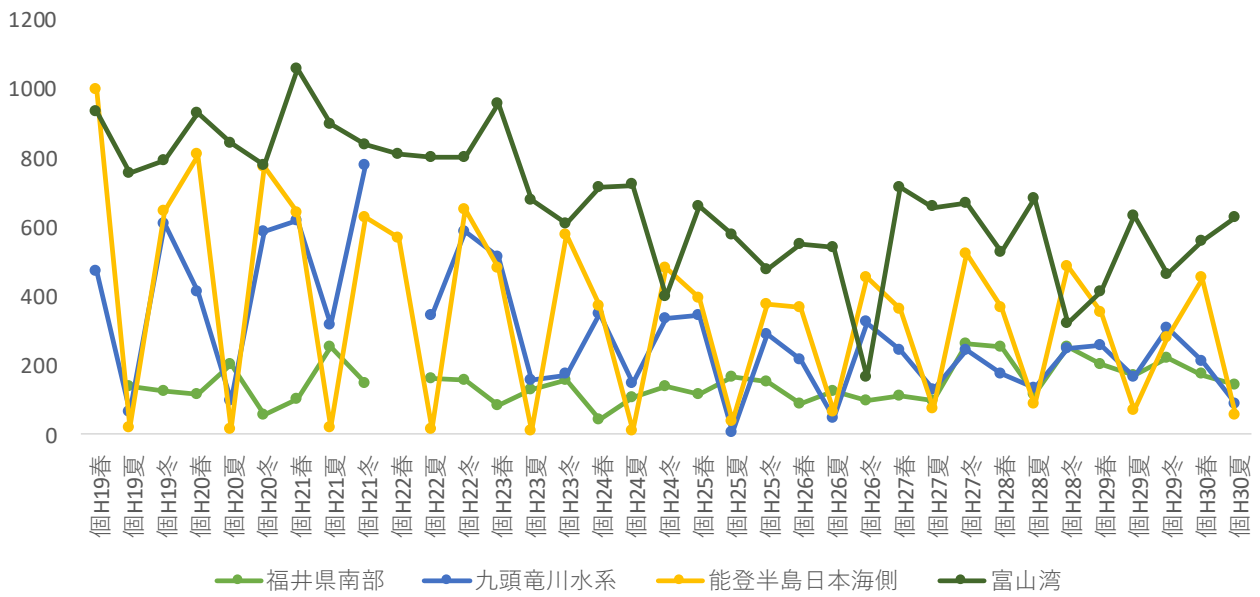


図9. 北陸地方における水系単位のカワウの個体数の推移(折れ線グラフ)

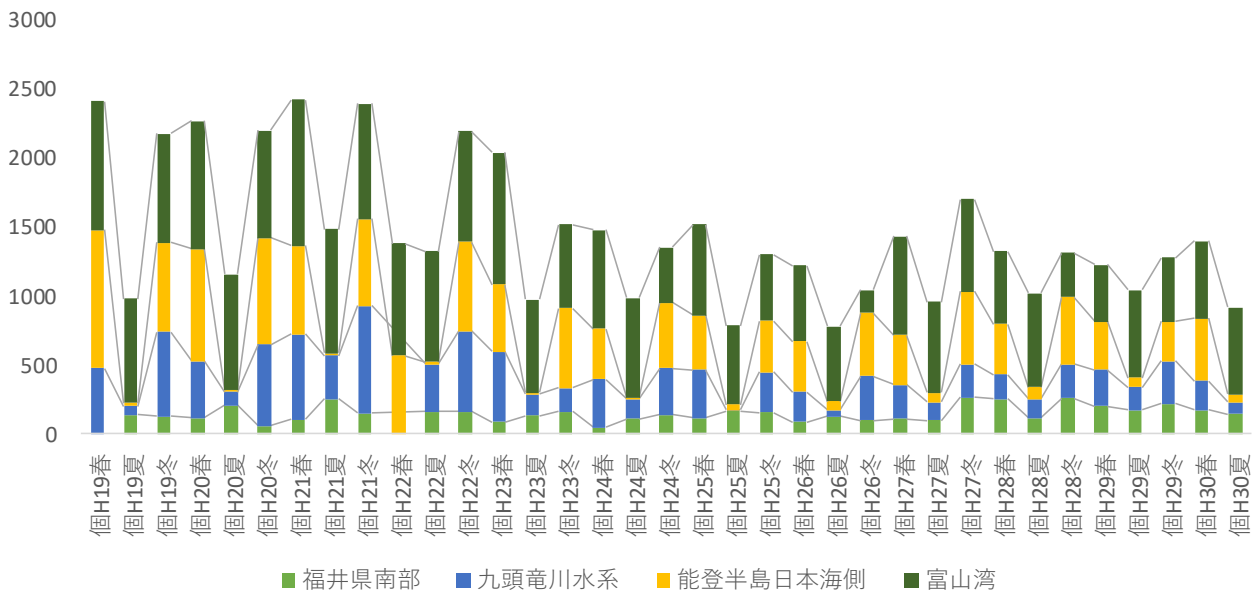


図10. 北陸地方における水系単位のカワウの個体数の推移(積み上げ棒グラフ)

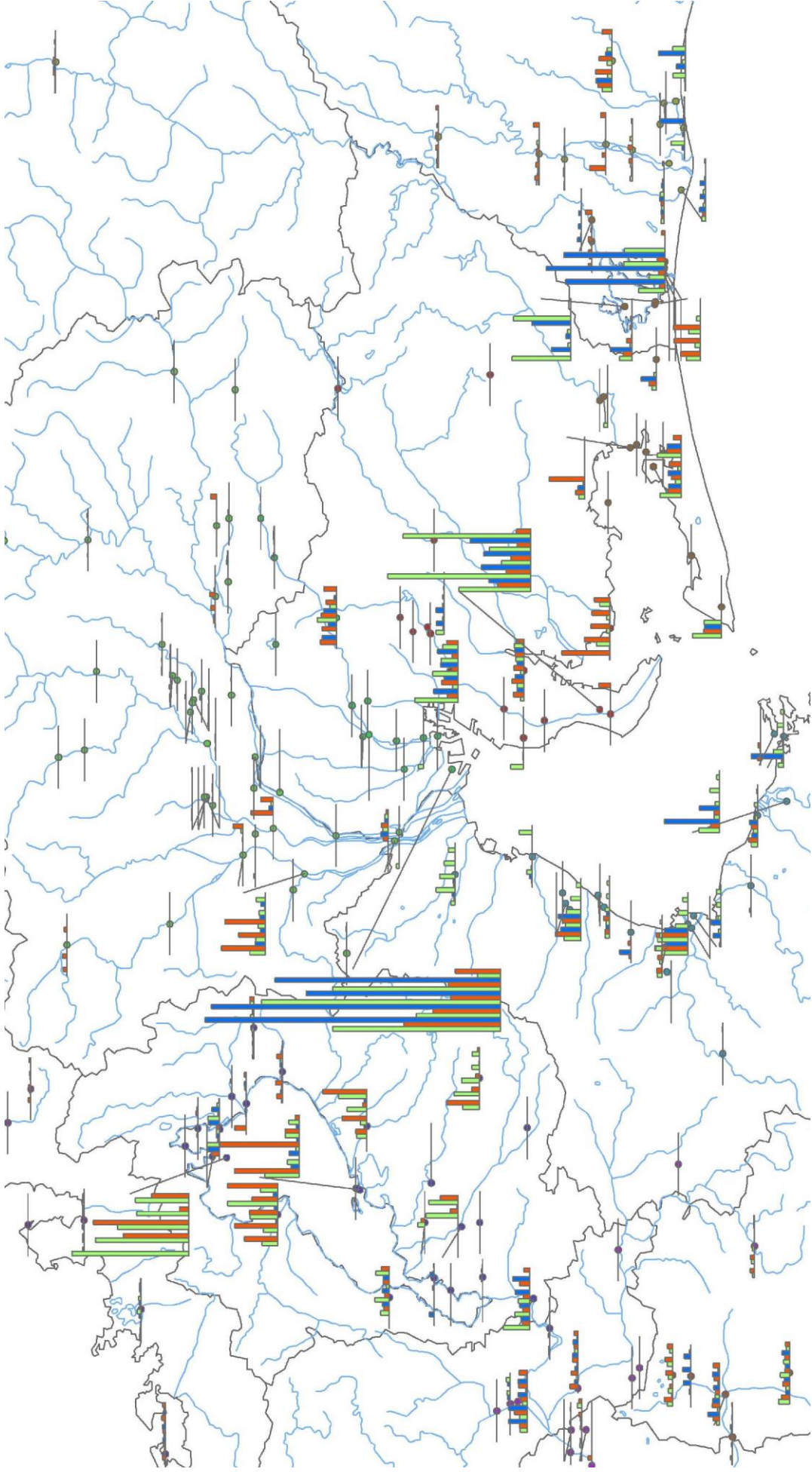


図11. 東海地方におけるねぐら単位のカワウの個体数 (H26年春～H30年夏)。グラフは薄緑が春、橙が夏、青が冬、青が冬の個体数を示し、集計した水系単位で色分けした。丸印はねぐらの位置を示し、



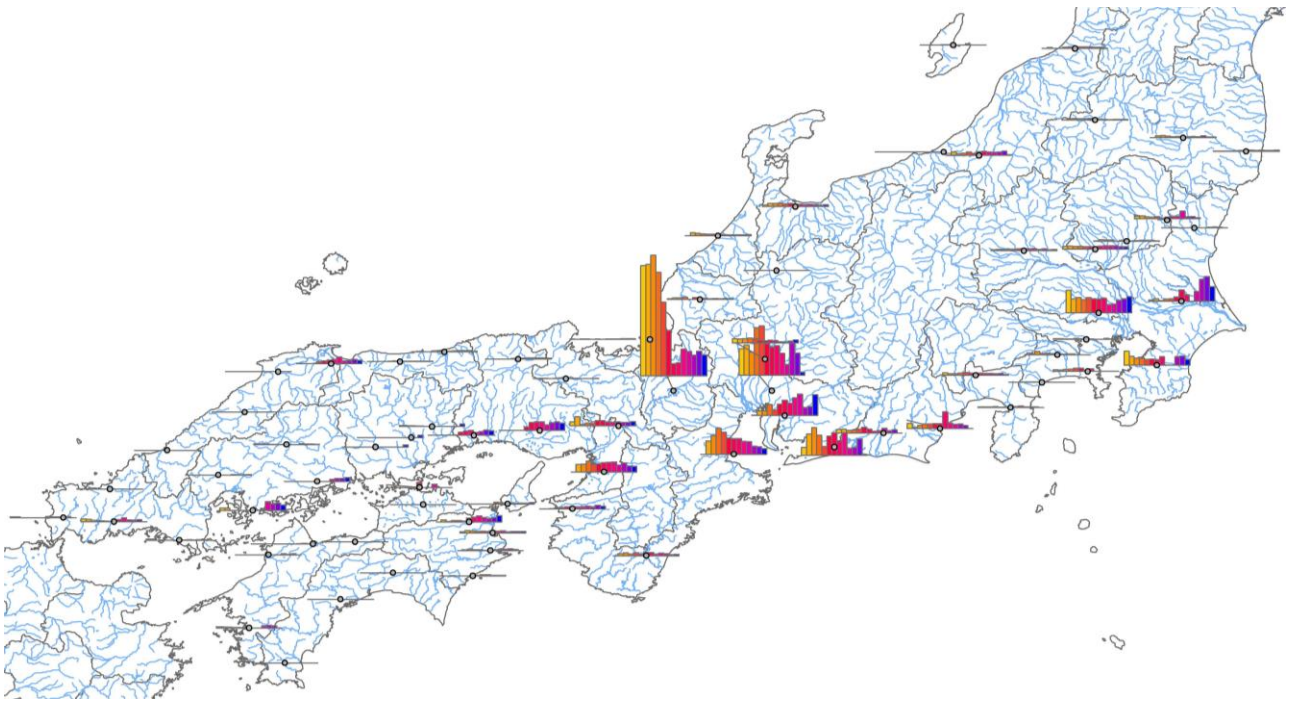


図12. 春のカワウの個体数の経年変化 (H18-H30 年)

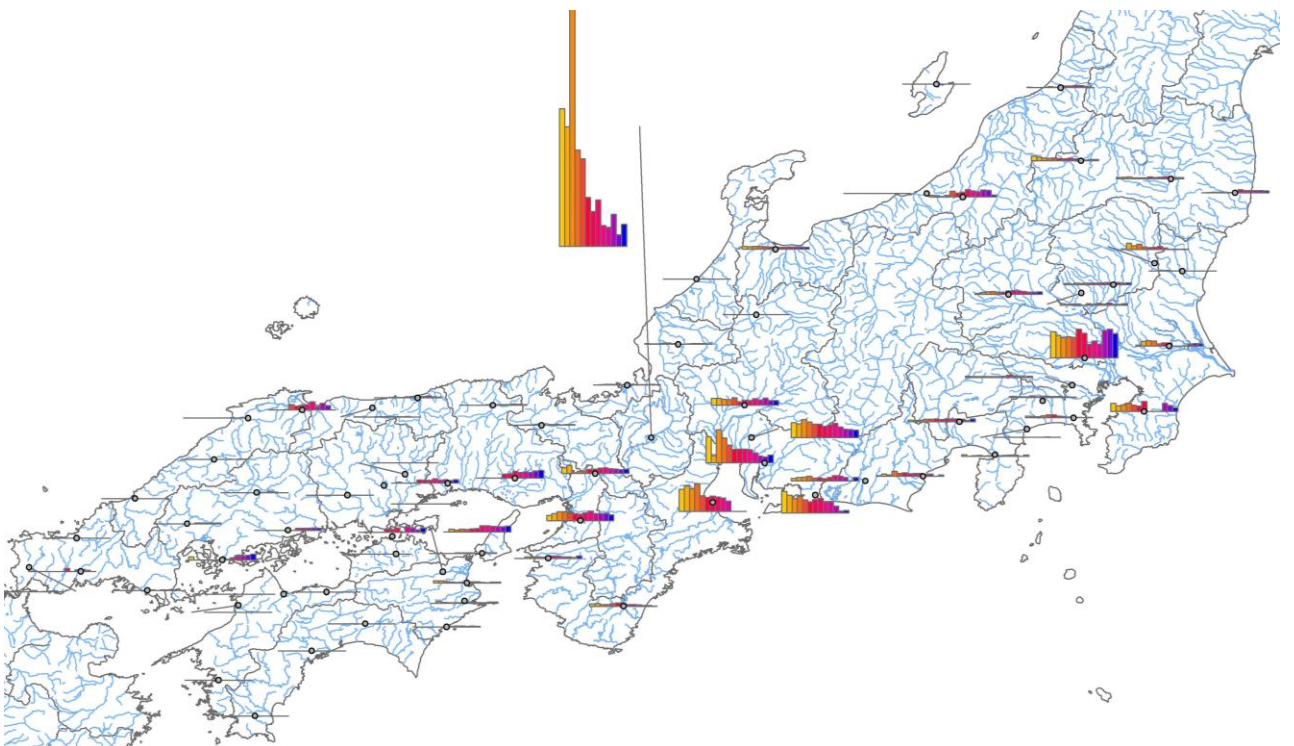


図13. 夏のカワウの個体数の経年変化 (H18-H30 年)

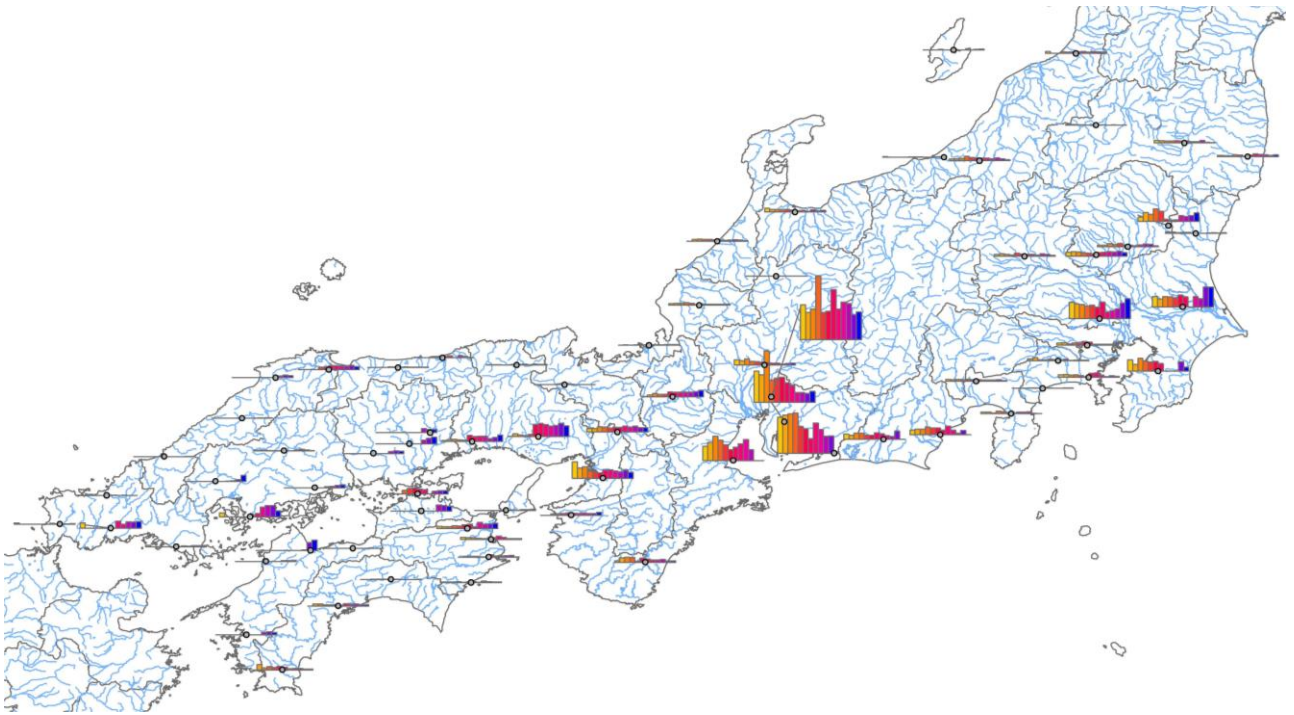


図14. 冬のカワウの個体数の経年変化(H18-H30年)

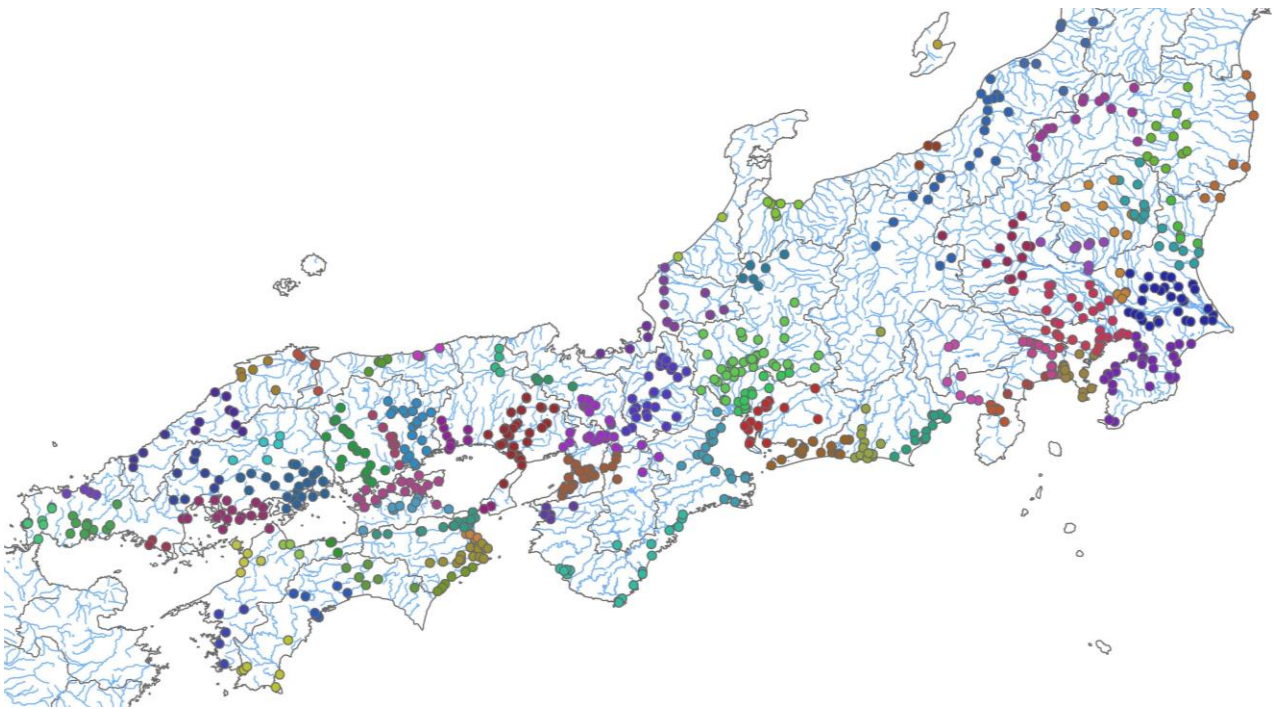


図15. 集計した水系の分布